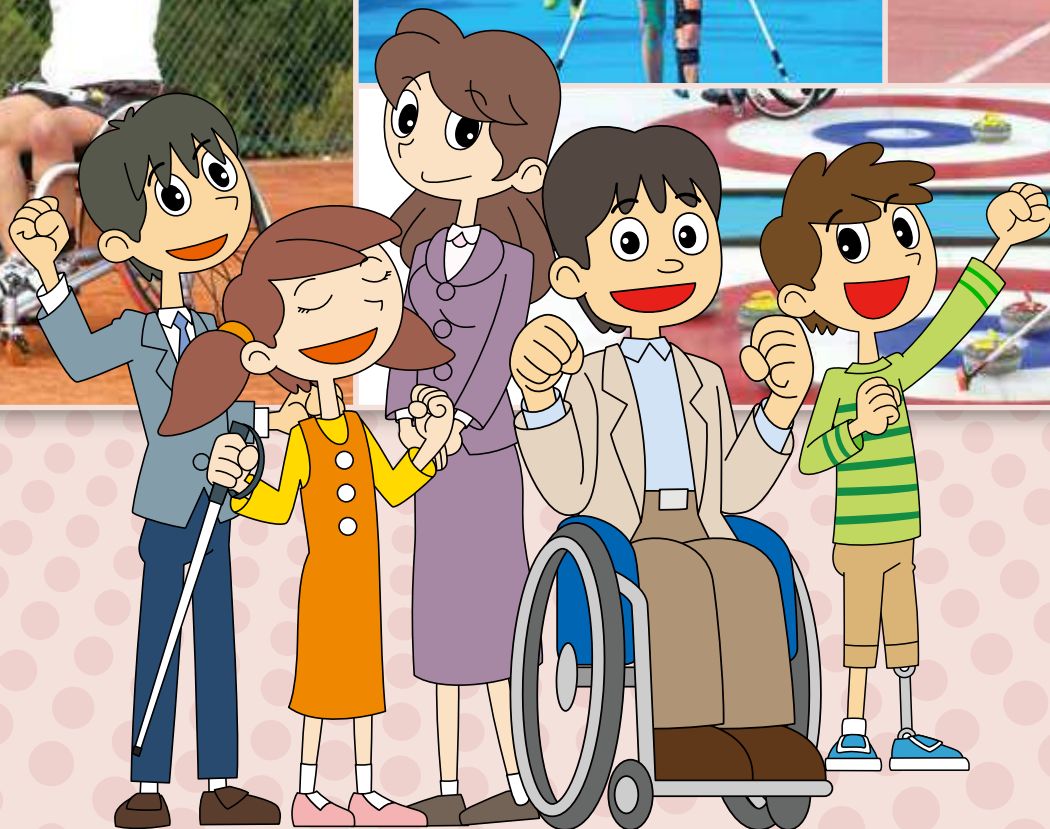
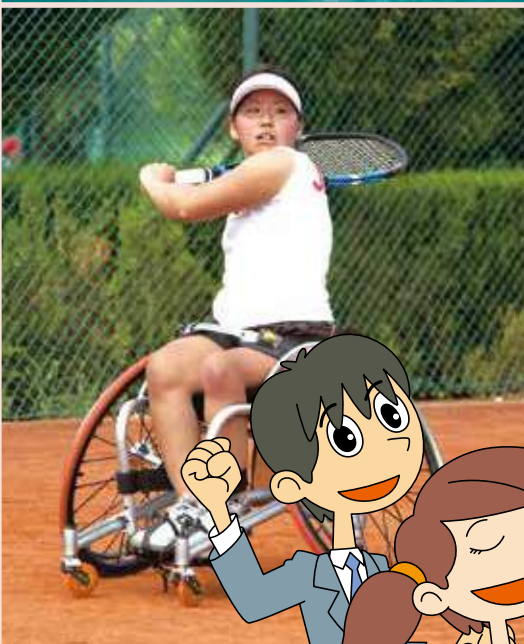


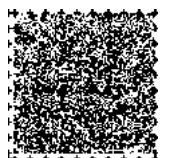
いっしょに^{まな}学ぼう!

障害のある人の^{じん}人権^{けん}

～パラリンピックへ向けて～



この冊子は、各ページの切欠きの横に音声コード(SPコード)を印刷しております。なお、一部文字量が多いページについては、続きを同ページの上の角にも印刷しております。専用の読み上げ装置で読み取ると、記録されている情報を音声で聞くことができます。



はじめに

日本では、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、障害のある人や高齢者が利用しやすいように、施設や交通機関などのバリアフリー化の進展が期待されています。また、開催にともない、言葉や文化が異なる外国人と触れあう機会も多くなることから、互いの違いを認め、すべての人々が幸福に生活することができる未来に向けて共に歩んでいくことが重要になってくるでしょう。

誰もが本来持っている一人一人の個性や能力を最大限に生かすために私たちに何ができるのか、この冊子を通じて、障害のある人の人権を中心に、改めて「人権」について考えてみませんか。

登場人物の紹介



ねぎさん

車いすバスケットプレーヤー。
この冊子の案内役。



ケンくん

スポーツが大好きな小学5年生。
足に障害があり義足。



ミクちゃん

歌が得意な小学5年生。
視覚障害がある。



ジンくん

中学1年生。ボランテアに興味を持って勉強している。
発達障害がある。



サチエ先生

ケンくんとミクちゃんとの担任の先生。

もくじ

はじめに／登場人物の紹介 1

第1章 知る

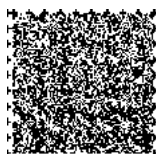
- 1. パラリンピックの歴史と人権 2
- 2. オリンピアン・パラリンピアンからみんなへ 7
- 3. 障害者スポーツやサポートする用具 11
- 4. 障害のある人の人権 13

第2章 考える

- 5. 心のバリアフリーをめざすために 17
- 6. 未来に広げる輪 19

第3章 行動する

- 7. 学校で、街中で、ぼくたち、わたしたちにできること 21
- 8. ぼくたち、わたしたちから始めよう 25



パラリンピックの歴史と人権



パラリンピックはいつ、どんな風に始まったの？

イギリスのルードウィッヒ・グットマン卿が、1944年にストーク・マンデビル病院で、戦争で脊髄を損傷した兵士のリハビリにスポーツを取り入れました。そして、1948年のオリンピック・ロンドン大会と時を同じくして、車いす患者によるアーチェリー大会を開催しました。これが、パラリンピックの原点とされています。

この大会は、その後、毎年開催され、ついには国際大会として発展していきます。1960年のオリンピック開催国であるイタリアのローマで開催された、国際ストーク・マンデビル車いす競技大会は、国際パラリンピック委員会(IPC)によって第1回パラリンピックと認定されています。第1回大会には、23か国から400人も車いす選手が参加し、車いすによるポロやバスケットボールなどの競技が行われました。



パラリンピックは世界最高峰の障害者スポーツの祭典



国際ストーク・マンデビル車いす競技大会(1953年)
写真提供:アフロ

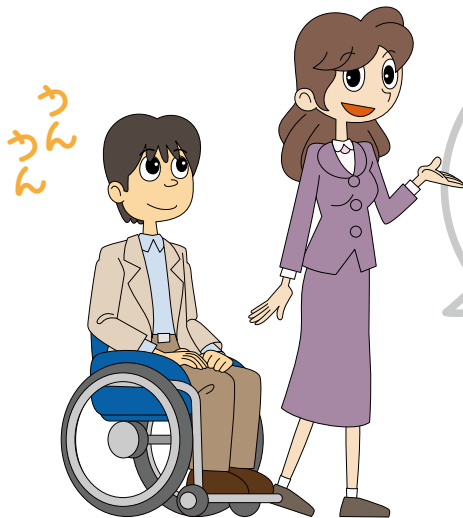
パラリンピックは、回を追うごとに参加国・参加者数が増え、規模も拡大していき、下半身不随に限らず、視覚障害、脳性麻痺など、体に障害のあるさまざまな人たちが参加する国際スポーツ大会というスタイルへと進展していきました。2000年には「オリンピック開催国はオリンピックとパラリンピックを同時に開催する」ことが正式に決まり、現在に至っています。



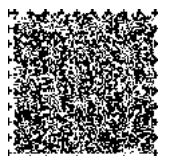
第1回ローマパラリンピック 開会式(1960年)
写真提供:AP / アフロ



第2回東京パラリンピック 開会式(1964年)
写真提供:毎日新聞社 / アフロ



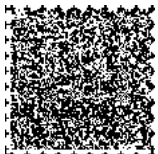
スポーツを通じライバルと競い合い、目標に向かって努力することで、心も体も成長することができるのです。パラリンピックは、世界最高峰の障害者アスリートが集うスポーツの祭典へと現在も発展し続けています。



知る

かんがえる

こうどうする



パラリンピックの父 ルードウィッヒ・グットマン卿って どんな人だったの？

ルードウィッヒ・グットマン卿は、元々はドイツ出身のユダヤ系神経学者で、ポーランド・ヴロツワフのユダヤ病院で医師をしていました。1939年、ナチス(ヒトラー率いる国家社会主義ドイツ労働者党)の迫害から逃れるため、ドイツを離れイギリスに亡命。1944年、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院国立脊髄損傷センターの所長に就任しました。

グットマン卿は、第二次世界大戦によって脊髄を損傷した兵士の治療にあたっていました。戦争により、体だけでなく心にも深い傷を負った患者たちの健康を回復させることは、簡単なことではありませんでした。しかし、日々患者たちと向き合っていたグットマン卿は、スポーツが患者の体力を向上させるばかりでなく、沈みがちな心を向上させるのに有効であることに気づき、体と心のリハビリテーションには、スポーツが最適であると考えたのです。

1948年に開催された、車いすに乗った患者たちによるストーク・マンデビル病院でのアーチェリー大会。グットマン卿は、すでにこの時「将来的にはこの大会が真の国際大会となり、障害のある選手たちのために、オリンピックと同等な大会となるように」との望みを抱いていたといわれています(参考:日本パラリンピック委員会HP)。グットマン卿は1980年に80歳でこの世を去りましたが、パラリンピックの父とよばれる彼の思いは現実となり、今でも力強く息づいています。

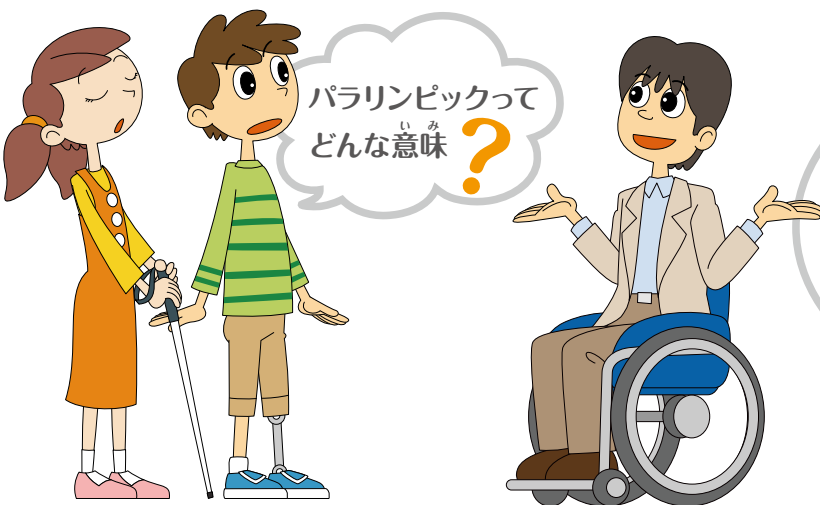


ルードウィッヒ・グットマン卿
写真提供:アフロ

知る

かんがえる

こう行動する



パラリンピックって
どんな意味？

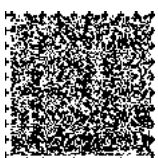
「Paraplegia(パラレジア)*」と「Olympic(オリンピック)」という言葉を組み合わせて、1964年の東京大会の時に、日本で名付けられた愛称だったんだ。国際オリンピック委員会(IOC)がパラリンピックを名乗ることに同意した1985年以降は、パラ=Parallel(パラレル)*+Olympics(オリンピックス)、つまり「オリンピックと同様の大会」という意味になったんだよ。

*paraplegia: 下半身にまひがある状態のこと
*parallel: 類似した、同様の

パラリンピックのシンボルマークにも意味があるの？



赤・青・緑の3色の曲線で描かれたパラリンピックのシンボルマークは「スリー・アギトス」と呼ばれているよ。アギトスとは、ラテン語で「私は動く」という意味なんだ。3つの曲線は「動き」を象徴したもので、パラリンピック選手が「常に前進しあきらめない」こと、「その姿が世界の人々に勇気と感動を与える」ことなどを表現しているんだ。赤・青・緑の3色は、世界の国旗でもっとも多く使用されている色ということで選ばれたんだって。



2014年ソチパラリンピックの日本選手団の制服エンブレム。日本パラリンピック委員会のシンボルマークには、日本国旗とJAPANの文字の間に、「スリー・アギトス」が刺繍されている。
写真提供:アフロスポーツ

しょうがいしゃ こくさいたいかい かんれん ねんびょう
障害者スポーツ国際大会関連年表

1924年

だい かいこくさい しゃ きょうぎ たいかい げん
 第1回国際ろう者スポーツ競技大会(現デフリンピック)がフラン
 スのパリで開催される(国際的な障害者スポーツ大会の始まり)

1948年

いし きょう
 医師であるルードウィツヒ・グットマン卿により、ストック・マン
 デビル病院内で車いす患者によるアーチェリー大会が開催され
 る(パラリンピックの原点)

1952年

だい かいこくさい たいかい かいさい こくさいきょうぎ
 第1回国際ストック・マンデビル大会が開催され、国際競技
 会へと発展する

1960年

こくさい たいかい い いんかい せつりつ
 国際ストック・マンデビル大会委員会 (ISMGC) が設立され、
 グットマン卿がその初代会長に就任する
 オリンピック開催都市であるローマで、国際ストック・マンデ
 ビル大会が開催される(国際パラリンピック委員会 (IPC) 設
 立後、第1回パラリンピックと認定)

1964年

とうきょう ちよくご こくさいしんたいしやうがいしゃ たいかい かいさい
 東京オリンピック直後に国際身体障害者スポーツ大会が開催さ
 れる (IPC 設立後、第2回パラリンピックと認定)

1976年

こくさいしんたいしやうがいしゃ きこう
 国際身体障害者スポーツ機構 (ISOD) が
 中心となり、冬季大会がスウェーデンのエ
 ンシェルツヴィークで開催される (IPC 設立
 後、第1回冬季パラリンピックと認定)

1985年

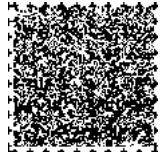
こくさい い いんかい ねん かいさい
 国際オリンピック委員会 (IOC) が、オリンピック年に開催す
 る国際身体障害者スポーツ大会を「Paralympic (パラリンピッ
 ク)」と名乗ることに同意する

1988年

61 くに 3,057 ひと せんしゆ しつじやう
 61 国 3,057 人の選手が出場した「ソウルパラリンピック」が開
 催される
 ※オリンピックとパラリンピックが史上初めて運動して開催された(開催都市
 が同一になり、オリンピック施設がそのままパラリンピックの施設として使用
 される)

1989年

ドイツのデュッセルドルフの会議において
 国際パラリンピック委員会 (IPC) が創設
 される



し
知
る

かんが
考
える

こう
行
動
する

オリンピックはいつ始まったの？

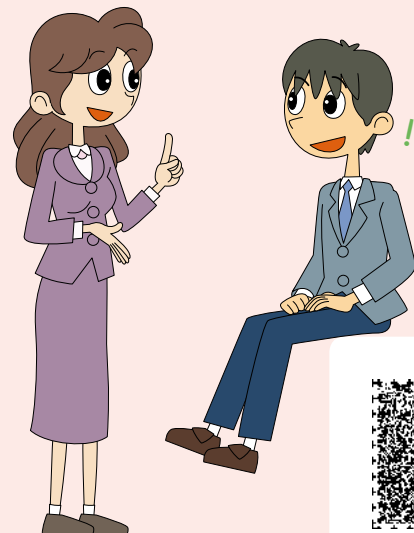
き げんぜん せい き ごろ ち ほう かいさい かみがみ ささ きょうぎ さいてん
 紀元前9世紀頃、ギリシャのオリンピア地方で開催された神々に捧げる競技の祭典がオリ
 ンピックの起源といわれています。この古代オリンピックは、393年に終焉しますが、それか
 ら1500年の時が流れた1896年、「スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍な
 どさまざまな差異を超え、友情・連帯感・フェアプレーの精神をもって理解しあうことで、平和
 でよりよい世界の実現に貢献する」というフランスのクーベルタン男爵の提唱により、古代オ
 リンピックのふるさとアテネで復活。それが近代オリンピックの誕生となり、4年に一度、世界
 各国で開催されるようになりました。オリンピックは、人々に感動と勇気、平和を届け続け、
 2020年の東京オリンピックで第32回目を迎えます。



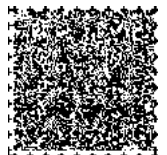
ピエール・ドゥーベルタン男爵
 写真提供:共同通信社



1896年 アテネオリンピック 開会式
 写真提供:アフロ



そんな
昔から？



国際パラリンピック委員会 (IPC) の モットーは「Spirit in Motion」

障害のあるアスリートたちの熱い戦いを目にする事ができるパラリンピック。そんなパラリンピックを統括するIPCのモットーは「Spirit in Motion」。「パラリンピックのアスリートのすぐれたパフォーマンス」と「人を勇気づける」というパラリンピックムーブメントの特性を表現しています。



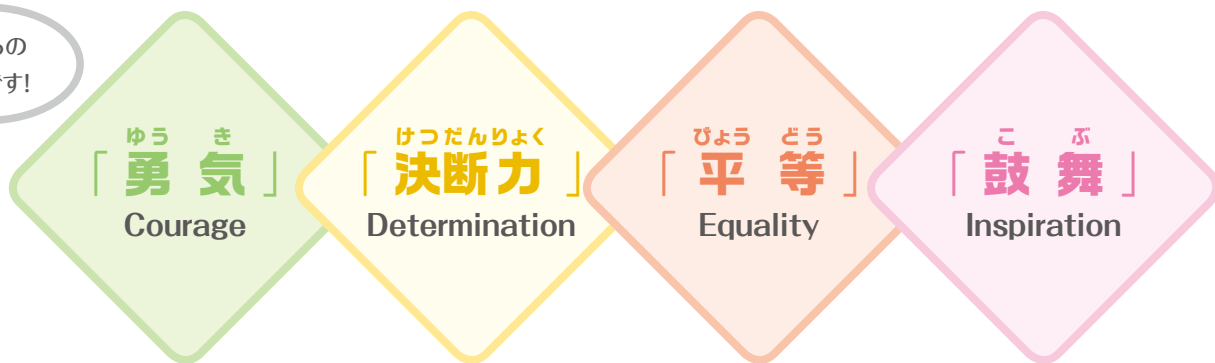
2012年 ロンドンパラリンピック 男子テニス
金メダリスト 国枝慎吾選手 写真提供：AP / アフロ

パラリンピックの価値と精神

IPCは「Spirit in Motion」が描くビジョンをさらに明確化し、「**勇気**」「**決断力**」「**平等**」「**鼓舞**」という4つの価値を掲げています。



こちらの
4つです!



パラリンピックが都市にもたらすもの

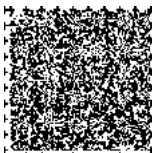
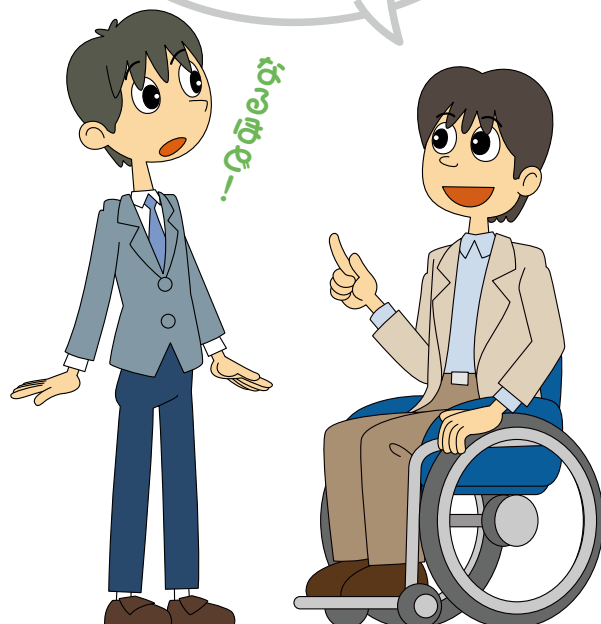
パラリンピックの価値と精神「**勇気**」「**決断力**」「**平等**」「**鼓舞**」は、社会に大きな変化をもたらすきっかけとなってきました。パラリンピックが開催された都市は、どう変わっていったのでしょうか。

パラリンピックは、開催された都市を中心に、人々のバリアフリーに対する意識を大きく変化させてきました。道路や公共の乗り物といった構造物のバリアフリー化はもちろん、障害のある人たちや外国人など、さまざまな立場の人々への関心を持つ機会が増えることで、多様性を理解し、互いを尊重しあう心が育まれます。パラリンピックによって、「多様性と調和」による「共生」への理解が、開催都市をはじめ社会に根づく契機となるにちががありません。

2014年 ソチパラリンピック バスの車いす用スロープ
写真提供：長田洋平 / アフロスポーツ

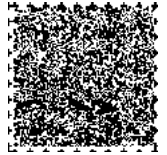


世界やそこに住む人々は
実に多様で、容姿、文化、言葉なども
異なっているんだ。こうした違いを理解し、
お互い認め合うことで、平和を維持する成熟
した社会へと発展していくんだよ。パラリン
ピックは人々にそのことを気づかせて
くれる大会なんだね。



オリンピック・パラリンピックが 目指す「人権」

オリンピック憲章 (抜粋)



オリンピックの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人間の調和のとれた発展にスポーツを役立てる

ことである。

(「オリンピックの根本原則」2より)

IOCにより採択された「オリンピック憲章」は、オリンピックの開催に関する取り決めに定めた基本的な文書です。この憲章の「オリンピックの根本原則」には、人権に関する記述が明記されています。

スポーツをすることは人権の

1つである。すべての個人はいかなる種類の差別も受けることなく、オリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。オリンピック精神においては友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められる。

(「オリンピックの根本原則」4より)

このオリンピック憲

章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国籍あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。

(「オリンピックの根本原則」6より)



日本オリンピック委員会「オリンピック憲章」(2018年版・英和対訳／2018年10月9日から有効)より

国際パラリンピック委員会

「IPCハンドブック」の「人権に関する立場表明」(抜粋)

IPCは、すべての人々がレジャーやレクリエーション、スポーツ活動を行う平等な機会を享受すべきであり、その権利は政府と地域社会の法律・行政システムによって保障され、守られると信じている。

(「人権に関する立場表明」2より)

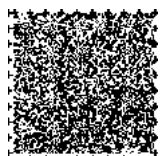
IPCは、障害のある人々の競技への無限の可能性を固く信じ、パラリンピアンたちのスポーツにおける功績を受容する。障害のある人々は、スポーツの上達、参加、トレーニング、そして功績を認められる機会を、すべての学校、スポーツクラブや競技会場、スポーツ組織や地域社会で提供されるべきである。

(「人権に関する立場表明」3より)

IPCは、スポーツが平和の推進に寄与し、万人に対して人間の尊厳と平等を守るものであると信じている。

(「人権に関する立場表明」4より)

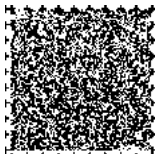
オリンピック・パラリンピックは、国連の「世界人権宣言」に明記されている「すべての人間は生まれながらにして自由で平等」であるという理念を基に、スポーツを通じて「人権を守り平和に貢献する」ことを目指しています。スポーツを通じた人権についての理念は、「オリンピック憲章」や、パラリンピックの憲法ともいえる「IPCハンドブック」にしっかりと明記されているのです。



知る

考える

行動する



夢をあきらめず、パラリンピックやオリンピックで大活躍!

数々の困難や壁を乗り越え、夢をあきらめずに努力した結果、大きな喜びをつかみ取ったオリンピックとパラリンピアンをご紹介します。

競技を始めたきっかけや競技への取り組み方、想い、喜び、そして障害者スポーツを通じて感じてほしいことなど、みなさんに伝えたいことをたくさん話してもらいました。

3人はボクと仲の良い友達なんだ!



知る

かんがえる

こう行動する



■ 柴田 亜衣 (しばた あい) さん / プロフィール

3歳のころから水泳を始め、2004年、日本水泳選手権で日本水泳連盟が定める派遣標準記録を突破し、2004年アテネオリンピックの競泳女子400m、800m自由形の代表に選出される。その800m自由形では、本命のフランス代表ロール・マノドゥ選手を残り50mのターン付近でとらえて逆転。金メダルを獲得した。現在は、水泳の楽しさについて教室などを通じて伝えると共に、講演やイベントで、スポーツの普及振興活動を行うなど、幅広く活躍中。



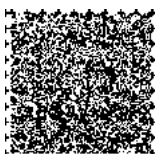
■ 上地 結衣 (かみじ ゆい) さん / プロフィール

小学5年生で車いすテニスを始め、14歳のときには史上最年少で日本ランキング1位に。2014年、全豪オープンでダブルスでグランドスラム初優勝。以後、全仏オープンでダブルス・ダブルス優勝、ウィンブルドンでダブルス優勝、全米オープンでダブルス・ダブルス優勝し、史上最年少でダブルスの年間グランドスラムを達成。2016年リオデジャネイロパラリンピックのダブルスで銅メダルを獲得。キャリア自己最高ランキングはダブルス共に、世界1位。三井住友銀行所属。



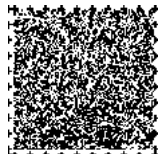
■ 村田 諒太 (むらた りょうた) さん / プロフィール

中学時代にボクシングを始め、高校時代に5冠を達成。2004年に東洋大学に進学し、全日本選手権で優勝。2008年の北京オリンピック出場を逃し、現役を一度引退。2009年現役復帰後、2011年の世界アマチュアボクシング選手権で準優勝。2012年ロンドンオリンピック ボクシングミドル級で金メダルを獲得。2013年プロ転向後は、2017年10月に世界王座獲得、そして2018年4月に日本人として初めて防衛に成功。その後、10月に王座を失うが、現在奪還を目指している。プロ対戦成績 / 16戦14勝(11KO)2敗。(令和元年6月末日現在)。



一生懸命に取り組むパラリンピアンが 頑張る気持ちのきっかけになればうれしいですね。

柴田 亜衣さん 2004年アテネオリンピック出場 競泳女子800m自由形 金メダリスト



水泳を始めたきっかけ

水泳を始めたのは3歳のときでした。実は母が水泳を始めたかったようで、それならば、子どもたちも一緒に、スイミングスクールに通い始めました。私は、ただ、母と姉と一緒に出掛けられることがうれしくて楽しかったですね。

本気で「オリンピックに行きたい」と思ったのは、2004年のアテネオリンピックの1年前。大学4年生のときに、「夢」だったオリンピックが、「目標」に変わりました。オリンピックでは「誰かのためではなく自分のため」と思って、とにかく自己ベストを出そうと思っていました。

そんな中で、金メダルを取れたのは自分でも驚いていますが、オリンピック後にたくさんの方々から声をかけていただいて、それまで一人で泳いでこれたわけではないことに改めて気づきました。学校や家族のバックアップ、たくさんの方々の応援など、あたり前だと思っていたことは、あたり前じゃなかった。自分では自然に感じていた、たく

さんの出来事やチャンスの裏で、実はとても多くの人に助けられていた。それまでには気付かなかったことをアテネ後に再認識できて、今でもサポートしていただいた方々には、感謝の気持ちで一杯です。

パラリンピアンは 魅力でいっぱい

現役を引退してからは、東京オリンピック・パラリンピック招致イベントなどで大勢のパラリンピアンの方々と知り合うことができました。最初は、パラリンピアンの方たちとどう接していいのか、障害について触れていいのか、正直戸惑いましたが、みなさんと仲良くなり、いろいろな話を聞くうちに、アスリートとしての意識は一緒だと思えましたし、自分をしっかり持ち、何事にも向き合われている姿にむしろすごいと感じ、自然に戸惑いもなくなりました。

また、車いすバスケの体験をする機会があったのですが、体の使い方や動きなどがとても難しく、自由に動きまわることが全くできず、選手の方々って



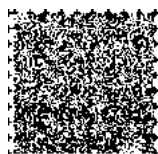
本当にすごいなと感じました。今でも、パラリンピアンの方々と会うたびに、聞いてみたいことが湧いてくるので、これからも障害者スポーツを体験したり、大会を観たり、話を聞いたりしていきたいと思います。

この冊子を読んだみなさんも、障害者スポーツを近くで体験できる機会があれば、実際に体験してほしいですし、障害のある人がいらっしやれば、積極的に声をかけて、話してほしいです。

一生懸命に取り組む パラリンピアン の姿を見てほしい

スポーツは、一生懸命に取り組んでいる姿が分かりやすい。そういう意味では、障害のある人がパラリンピックで頑張っている姿は、勝ち負けではなく、一生懸命という言葉がより純粋に伝わってくる気がします。

パラリンピアンを通じて、スポーツだけではなく、勉強や芸術であったり、「私も何か頑張ってみよう、挑戦してみよう」と思って、次へ進むきっかけになってくれたら、うれしいですね。

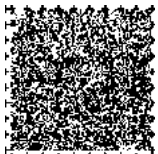


写真提供：株式会社プラミン

知る

考える

行動する



好きなことだから、つらいと思っ**おも**たことはありません。
 くるま 車いすテニスをきっかけに
 ゆめ きぼう も 夢や希望を持つことができました。



かみじ ゆい ねん 2016年リオデジャネイロパラリンピック出場 しゅうじょう くるま 車いすテニスシングルス銅メダリスト、ダブルス4位入賞



自分の得意な**す**もの、好きなものを**み**つけてほしい

しょう 障害があると、なかなか自分に自信が持てないかもしれません。私も一時期はそうでした。ただ私は、車いすテニスをきっかけに夢や希望を持つことができ、それが自信にもなりました。

障害のある人もそうでない人も周りの目を気にしないで、まずは「夢中になれるものを探してほしい」と思います。それがピアノや絵、勉強でもいいと思うし、自分の得意なもの、好きなものを探していけば、そこから夢や希望が見えてくると思います。そして、そこで見つけた仲間は、人生の大事な支えになってくれるかもしれません。

私はパラリンピックやパラリンピアンを通じて、たくさんの方の障害者スポーツにも出会うことができました。そして分かったのは、障害者スポーツはみんなが楽しめるスポーツだということ。みなさんも、ぜひ、車いすテニスはもちろん、障害者スポーツに興味を持って楽しんでみてください。



知る

かんがえる

こうどうする

くるま 車いすテニスを始めたきっかけ

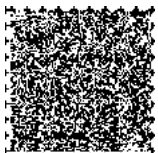
幼い時は、友だちと鬼ごっこやドッジボールをしたり、とにかく外で遊ぶことが好きな子どもでした。でも、小学校3～4年生のころから、徐々に歩くことが難しくなっていました。小さいときからずっとリハビリはしてはいたんですけどね。車いすでの生活になったときは、やっぱり落ち込みました。

体を動かすことが好きだったので、何かしたいと思って小学校4年の終わりがらから始めたのが車いすのバスケットボール。車いすテニスを始めたのは、バスケットボールのメンバーの紹介です。実はバスケットボール

をしている人の多くは、車いすテニスも掛け持ちでやっているんです。

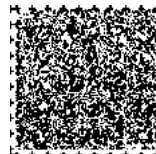
車いすテニスがつらいと思っ**おも**たことは一度もありません。本当に楽しいイメージしかないんです。つらいことよりも、試合に負けたときの悔しさはあります。でも、悔しい経験があるから、自分を奮い立たせて勝つことのうれしさが味わえる。そのお陰で、パラリンピックに出場したり、最高峰のグランドスラムのダブルスやシングルスで優勝することができました。

どの大会でも大勢の日本人の方の応援が力になります。SNSでの応援メッセージもうれしいですね。家族や友だちは、良い意味でプレッシャーにならない程度に応援してくれています。家族や友だちといるときはリラックスしたいから助かりますね。



自分ができると、やりたいことに 一生懸命に向かい合っている パラリンピアンは、とても輝いていました。

むらた りょうた 村田 諒太さん 2012年ロンドンオリンピック出場 ボクシングミドル級 金メダリスト／プロボクサー



ボクシングを 始めたきっかけ

エネルギーがありあまって、ちょっとやんちゃな子だったので、中学1年のときに先生からボクシングをすすめられました。本格的にボクシングに打ち込んだのは中学3年で、高校生になってからは、部活やジムでボクシング三昧でした。始めたころは、きつい練習が嫌で、逃げ出したこともあったんですよ。でも、その後、たくさんの良い出会いに恵まれて、続けることができました。それからは、つらい練習は「すればするほど自分のためになる」感じで、嫌じゃなかった。そして、試合に勝つことが自信になっていきましたね。

ぼくのモチベーションは、自分が一番強いことの証明、勝ちたいという欲求です。ボクシングは勝ち負けがハッキリするスポーツですから、ぼくの性格に合っていたのかもしれない。ぼくの知り合いのスポーツ選手も「負けたくない」と言っていましたから、「負けず嫌い」はスポーツをする上での重要な要素なんだと思います。



夢を持つこと、 やりきることの大切さ

ボクシングは夢を持つことの大切さを教えてくれました。ぼくの人生も豊かにしてくれました。ただ、夢に向かって歩き出せば、成功することも失敗することもあります。そのとき大事なことは、やりきること。やりきらなかったときは後悔が残ります。

ぼくもボクシングの中で負けたり、ケガをしたり、たくさんの挫折を味わいました。そんなとき「もう終わりがな」という考えが頭に浮かぶ一方で、「やりきっているか、やりきっていないか」を自分に問いかけてみます。正直に向き合えば、答えは自分の中から出てきます。

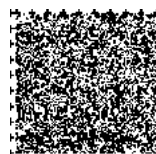
障害のある人は かわいそうじゃない

父親が障害者福祉施設で働いてたせいか、障害がある人についてはよく考えます。実は幼いころ父親に「障

害のある人って、かわいそうだね」と言ったことがあります。父親は「かわいそうじゃない、彼らは自分のことをかわいそうだなんて思っていないし、幸せに生きている」と言いました。幼かったので意味はよく分かりませんでした。が、今でもずっと心に残っているやり取りです。

オリンピックを通じて、多くの出会いがあり、素晴らしいパラリンピアンの方々にも会うことができました。そんな今だから、ぼくの言った言葉は健常者の一方的な思い込みだったことがわかります。

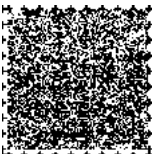
パラリンピアンの方々の超人的なパフォーマンスの数々を目の当たりにすると、自分も負けていられない、もっともっと成長できるはずと、心底感じさせられるのです。年齢・性別・職業などを超えて、本当の意味での勇気と感動を与えてくれる、パラリンピアンの方々の活躍に、みなさんもぜひ注目してほしいですね。



知る

考える

行動する



パラリンピック
ならではの
スポーツってあるの？



ボッチャ Boccia

重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために、ヨーロッパで考案された球技。ジャックボールという目標となる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う。障害により、ボールを投げることができなくても、勾配具(ランプ)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できる。男女の区別はなく、1対1で行う個人戦、2対2で行うペア戦、3対3で行うチーム戦がある。

写真提供：一般社団法人日本ボッチャ協会

5人制サッカー Football 5-a-side (ブラインドサッカー Blind Soccer)

視覚に障害のある選手がプレーできるように考案された5人制サッカー。転がると音の出るボールを使うことにより、ボールの位置が分かる。攻めるゴールの裏には、ガイド(コーラー)が立ち、ゴールの位置や方向、距離などをプレーヤーに伝える。ゴールキーパーは、晴眼者または弱視者が務める。(競技中の声の掛け合いなど、チームのコミュニケーション力が、勝敗の重要なポイントになる。)



写真提供：特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会

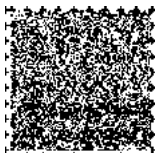


シットイングバレーボール Sitting Volleyball

戦争などによって体が不自由になってしまった人々により、オランダで考案されたスポーツ。プレーは床に臀部の一部が常についたまま行い、サーブ、ブロック、アタックなどで立ち上がった、飛び跳ねたりすると反則となる。コート of 広さは縦10メートル、横6メートルで、ネットの高さは男子が1.15メートル、女子が1.05メートル。国内大会では障害がある人もない人も一緒にプレーすることができるが、パラリンピックでは障害のある人のみが参加する。

写真提供：一般社団法人日本パラバレーボール協会

このほか、ゴールボール、ローイング、車いすフェンシング、車いすラグビーといったスポーツも、パラリンピックで行われるんだ。



知る

かんがえる

こう行動する

アスリートをサポートする用具ようぐ

パラリンピックでは障害のある人がプレイしやすいように、さまざまな工夫くふうがなされています。
車いすひとつをとっても、競技きょうぎに合わせて工夫され、パラリンピックに出場するアスリートをしっかりサポートしています。

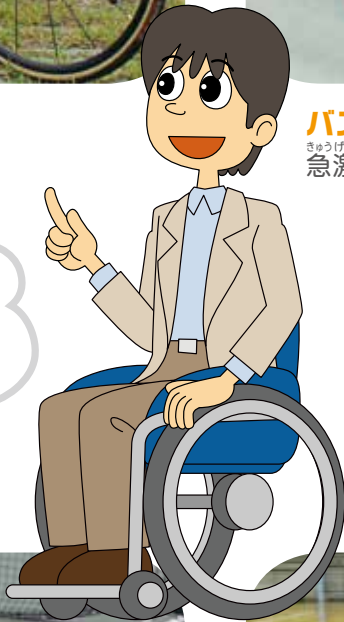


陸上競技用
低姿勢で高速走行に対応



バスケットボール用
急激なターンやダッシュ&ストップに対応

車いすひとつとっても
競技によっていろいろと
違いがあるね！



テニス用
スタートやダッシュ、そして高速ターンを可能にする

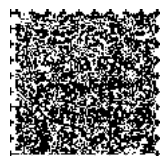


車いすラグビー用 (ディフェンス型)
相手をブロックするためバンパーが飛び出している

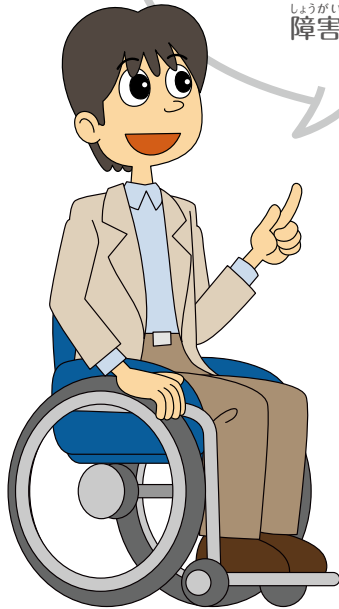
知る

考える

行動する



車いす写真4点提供：エクスワン



パラリンピックのことや、
パラリンピアンという言葉などから、
みなさんは、障害について、どのように
感じましたか？次は日常生活の中にある
障害について目を向けて
みましょう。

たとえば…

私たちの身の周りには
どんな「障害」があるのかな？

私たちの社会には、心や身体に障害のある人、高齢者や子どもなど、さまざまな人が一緒に暮らしているよね。だれにでも、「基本的な権利」、つまり、「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」が、世界人権宣言や日本国憲法などで、保障されているんだ。でも、実際には、障害のある人などにとっては、日常生活で困ってしまうことがたくさんあるんだ。

知る

かんがえる

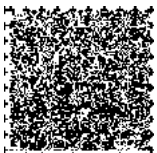
こうどうする



道にある小さな段差は、障害のない人にとっては気にならないけど、車いすに乗っている人にとっては、スムーズに通行することが難しいんだ…。



面白そうな講演会を見つけた！
あ、でも、手話通訳や字幕がないから、聴覚障害のある人にとっては、参加しても分からないなあ…。



しょうがい こじん
障害の「個人モデル」
 (医学モデル) の考え方

しょうがい しょうがい
障害のある人が日常生活で困ってしまうのは「その人に障害があるから」であり、解決するのはその人と家族の責任だとする考え方を障害の「個人モデル(医学モデル)」というんだよ。この考え方によると、さっきの段差や、手話通訳のない講演会などは、障害のある人自身と家族が個人的に乗り越えなければならないものということになるんだ。でも、それで、本当にすべての人にとって気持ちよく暮らせる社会といえるのだろうか？



しょうがい こじん
障害の「個人モデル」



知る

しょうがい
障害の「社会モデル」ってなに？

しょうがい しょうがい
障害の「社会モデル」は、「障害」は障害のある人ではなく、社会が作り出しているという考え方だよ。この「社会モデル」から考えてみると、さっきの段差や、手話通訳のない講演会などそれ自体が、必要な配慮をしていないことによってできた「障害」になるんだ。だから、社会の側がその「障害」を取り除いていかなくてはいいんだよ。



しょうがい しゃがい
障害の「社会モデル」

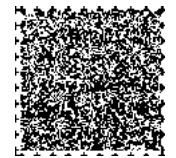


かんがえる

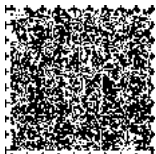
こうどうする

しゃしんでいせう 写真提供：アフロ

だんさ だんさ
 段差にスロープを付けたり、講演会に手話と字幕を取り入れたら、わたしたちにとって困ることはなくなるね！



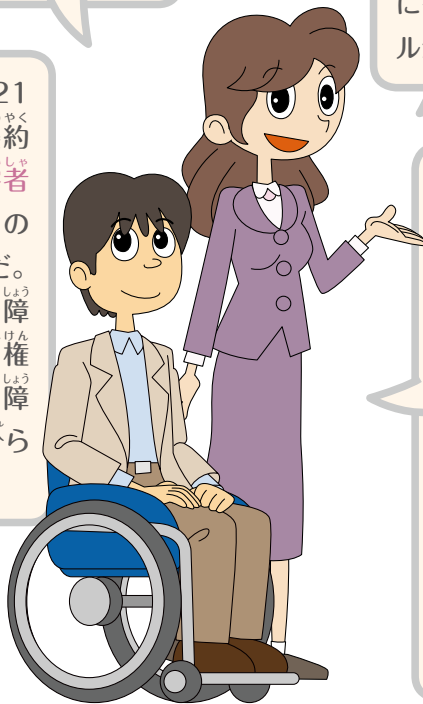
「合理的配慮」は世界のトレンド



障害のある人が困ることをなくしていくために、周りの人や社会などがすべき無理のない配慮を「合理的配慮」と呼んでいるよ。

「社会モデル」や「合理的配慮」の考え方は、障害のある人の人権を尊重するためのとても大切な考え方で、世界的にもこの考え方のもとにさまざまなルールが作られているの。

そうした動きを後押ししているのが、21世紀になって最初に作られた人権条約の「障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)」だよ。条約とは、国と国の間での国際的な約束のことをいうんだ。2006年に国連で内容が決められた障害者権利条約は、障害のある人の人権や基本的自由を守るための約束で、障害のある人がもともと持っている自分らしさを大事にしているんだ。



この条約の第2条では、障害のある人に「合理的配慮」をしないことは差別になるとはっきり決めているの! 第5条では、国が障害に基づくあらゆる差別を禁止し、「合理的配慮」がされるよう手続をとることも決めているのよ。日本は、2007年に条約に署名(条約の内容に賛成すること)をしました。署名の後、日本は障害のある人の差別を解消するための法律を作るなど、国内のルールの改革に力を入れたの。そして、2014年に条約を締結(条約の内容を守ることを約束すること)したのよ。

パラリンピアンが感じた日本と世界の「合理的配慮」の違い

上地 結衣さんが感じた日本と海外の違い



私は大会で海外に遠征する機会が数多くありますが、公共施設に関しては日本と海外で大きな差は感じません。むしろ、海外は道の段差が整備されていないところも多い。日本がバリアフリー先進国と感じるくらいです。ただ、車いすなどのための多機能トイレに関しては、海外の方が整備されていますね。日本は用意されていてもひとつだけ。設置されていないところも多いですね。

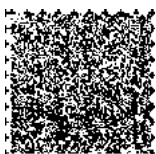
海外では、一か所に複数の個室があります。車いすの人がいなければ、一般の方も利用していますが、車いすの人がトイレに行けば、すぐに先頭と並ばせてくれる。そんな心遣いがうれしいです。

車いすなどのための多機能トイレは広いスペースを必要とするので、設置するのが難しいと思います。ただ、車いすの場合、トイレでの動作がたくさんあって大変。一人がトイレに入ると所要時間が長いんです。ぜひ車いすなどのための多機能トイレを複数用意してほしいですね。

また、海外は障害のある人に対し、フレンドリーに接してくれる気がします。「手伝ってほしいこと」を気軽に聞いてくれ

るし、障害のある人側が「自分でできるよ」と言えば「OK」と言って何ごともなかったように立ち去っていく。「普通に声をかけてくれるから、普通に受け答えができる」文化ができていると思います。

日本では「何かしてあげないと」という大げさな言動が先立っているような気がします。大事なことは、やっぱり「心のバリアフリー」なのかもしれませんね。



知る

かんがえる

こう行動する

どんな風に「合理的配慮」をしたらいいのかな？

困っているかもしれないときは、まずは声をかけ、サポートの必要性を確認して対応。

車いす用の低いカウンターを設ける。

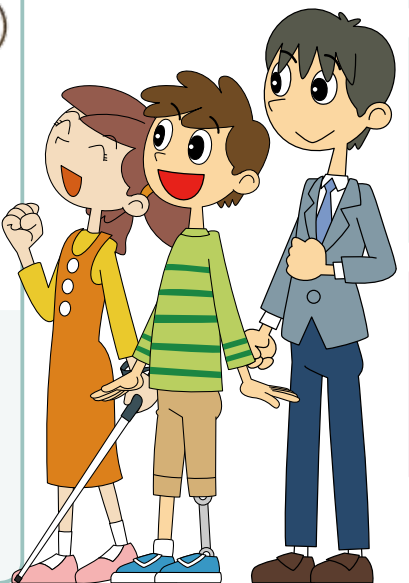
筆談、読み上げ、手話など、障害に応じたコミュニケーション手段を用いる。

絵や写真、カード、タブレット端末などをコミュニケーション手段に活用する。

障害のある人の駐車スペースは施設近くに設ける。

聴覚過敏の生徒のため、机・いすの脚に緩衝材をつけて雑音を軽減する。

入学試験時の別室受験、時間延長、読み上げ機能などの使用を許可する。



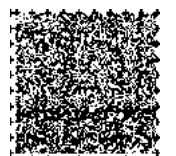
知る

かんがえる

こうどうする

障害者権利条約の締結までに日本が取り組んだ国内ルール改革

2011年	障害のある人についての法律や制度の基本的な考え方を示した法律（障害者基本法）の内容が新しくされました。
2012年	障害者福祉のしくみを新しくした法律（障害者総合支援法）が作られました。
2013年	障害があるという理由で障害のある人を差別することを禁止する法律（障害者差別解消法）が作られました。この法律は、その人に合った工夫、やり方を配慮することで、障害のある人が困ることをなくしていくことなどを決めています。
2013年	障害のある人が働くと、働きたいときの差別を禁止する法律（障害者雇用促進法）の内容が新しくされました。



参考：外務省「障害者権利条約」パンフレット

心のバリアフリーをめざすために



みんなにやさしい街って
どんな街だと思う？
考えてみよう！



バリアフリーを実現した社会をつくるのが大事だよ。まずは、普段の生活を考えてみよう。例えば、車いすを利用している人が階段を上るのは、まわりにいる人たちの手助けがないと難しいよね。でも、スロープやエレベーターがあれば、車いすを利用している人も自由に上の階に行くことができるんだ。

こうした設備や道具を整えて目の前の障害（※バリア）を取り除き、誰もが快適に過ごせる状態をバリアフリーとよんでいるよ。

※バリア=障壁。行動を妨げたり、物事を進行する時の妨げとなるもの。

いろいろなバリアフリー 【街のバリアフリー】

知る

考える

行動する

スロープがあれば
僕にとっての
障害はなくなるね！

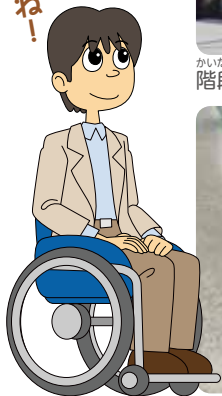


階段の横に用意されたスロープ



段差をなくして乗り降りしやすくした床が低いバス 写真提供:アフロ

「これは見たこと
あるよー！」



目の不自由な人を案内する点字ブロック



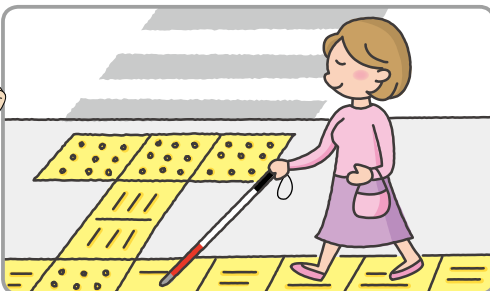
障害がある人向けの駐車場所を示した図(ピクトグラム)



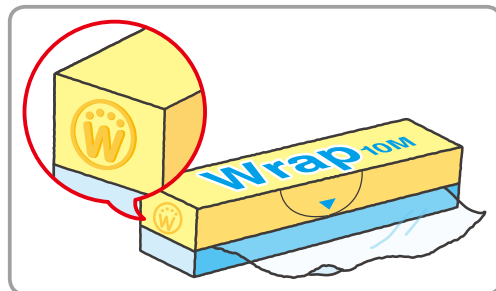
【道具や日用品のバリアフリー】



杖と私が持っている
ものと同じだね！

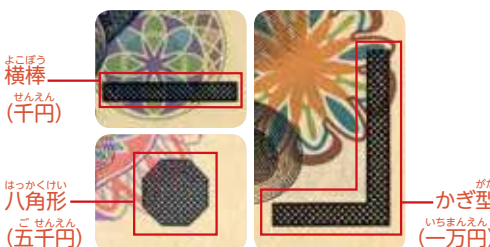


視覚障害の人が利用する白い杖と点字ブロック



家庭用ラップの識別マーク

家に帰ったら
調べてみよう！



お札を指でさわって識別できるざらつきをもったマーク 資料提供:国立印刷局



シャンプー容器の刻み



牛乳パックの扇状切欠



日常生活を妨げる
4種類のバリア

バリアフリーを実現するうえで、生活の中での障害となる壁、つまりバリアについて知る必要があります。バリアについては、次の4つに分けることができます。



「物理的なバリア」
階段や歩道の段差、通行を妨げる障害物など誰にでも分かる具体的なバリア



「情報のバリア」
音声や点字、手話、字幕といった、必要な人に分かりやすい案内がないことなど、情報をささげるバリア



「制度のバリア」
障害に対する配慮を欠いた社会のルールなどのバリア



「心のバリア」
差別や無関心など他人を受け入れない心のバリア

「物理的なバリア」「情報のバリア」をバリアフリー化するため、前ページのような施設、道具、日用品などが大いに役立っています。また、「制度のバリア」をなくすには、国、市町村などの行政の取り組みだけではなく、人々の理解が欠かせません。障害の有無、国籍、性別にかかわらず、誰もが平等に資格を取得する機会を得ることができたり、就学・就職活動することができる社会が理想です。そして、私たち一人一人が考え、取り除いていく上で、もっとも大切なのが「心のバリア」です。

もっとも重要なのは「心のバリアフリー」



さまざまなバリアはみんながつくっているんだね！

みんなで実現できるように一緒に考えてみよう！！

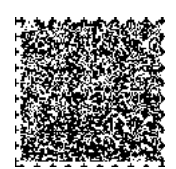
みんなで「心のバリアフリー」を実現しよう

まずは、障害・肌の色・性別・文化・国籍などの違いを理解して受け入れましょう。そのうえで適切な配慮や自然な声掛けなどを実践すれば、きっとみんなが過ごしやすい社会をつくることができます。「心のバリア」について考える、受け入れる、「心のバリアフリー」を実践することが大切です。

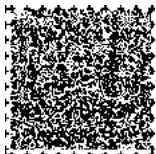
この冊子で、具体的にどのように行動すればよいのか、一緒に考えてみましょう。



これらのバリアはみんなの力でなくせるね！



知る
考える
行動する



できないことがあることは
ダメじゃない。

もう車いすも恥ずかしくないよ。

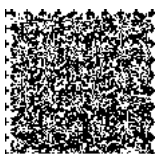
ぼくは柔道、水泳、サッカーと、とてもスポーツが得意な子
だったんだ。でも、高校生のときに事故にあって歩けなくなっ
た。足が速かった自分を知っているから、車いすの自分がかっこ
悪くて恥ずかしかった。でも、ある人から車いすバスケットボー
ルに誘われて変わったんだ。

人は誰でも得意なこと、不得意なことがあるよね。できないこ
とにチャレンジして頑張れば、それをみんなが見て応援する、そ
の応援を力にもっと頑張れるんだ。できないことがあることは
ダメじゃないことに気づいたんだよ。だから今は、歩けなかつた
り、走れないことにくよくよしてないよ。できないことがあつて
も、それ以上に、自分ができていることをたくさん発見することで前
に進むことができるんだってわかったんだ。

街の人同士が互いに理解することで、できないことを補い
合ったり、互いに応援し合って、それが当たり前になって、互い
への思いやりが少しずつ広がっていく。そんな世の中になつた
ら、みんなが友だちになれるんじゃないかな。友だちは、ときには
はげんかをするかもしれないけど、時間をかければ仲直りだつ
てできる。世界のみんなが友だちになれば、きっとだれもが幸
せに生きられると思うよ。

根木 慎志 (ねぎ しんじ) さん

高校3年生のとき、交通事故により脊髄を
損傷。車いすでの生活となり、大きな絶
望のなか、車いすバスケットボールに出会う。
本来の前向きな心とリーダーシップを発揮
し、国内トップクラスの車いすバスケット
ボールプレイヤーとなる。男子車いすバスケット
ボール日本代表チームのキャプテンを務め、
2000年に開催されたシドニーパラリンピッ
クに出場。現在は全国各地の小中学校を訪
れ、講演会や障害者スポーツを通じて、心の
バリアフリーを広める活動を行っている。



根木さんは、日本全国の
小中学校をまわって、「みんな
と友だちになろう」をテーマに心の
バリアフリーを広める活動をしてい
るんだ。そんな根木さんの活動
の様子を見てみよう。



車いすバスケットボール体験教室の様子



根木さんは車いすリレーや車いすバスケットボールを通じて、楽しみな
がら頑張ること、応援する気持ちも伝えてい
る。取材協力:大阪府松原市立松原小学校

知る

考える

行動する

根木さんがみんなに伝えたいこと

根木さん 今日はみんなと友だちになれたかな？

みんな なれたよ！友だちだよ！

根木さん みんなの教室に遊びに行ってもいいかな？

みんな いいよ。一緒に給食を食べようよ！

根木さん 教室は何階？

みんな 2階だよ。

根木さん エレベーターはある？

みんな なーい！

根木さん エレベーターがあれば、ぼくは自分でみんなのところに行けるんだけど…

根木さん みんなに聞くとよ。こんな時、ぼくが感じている障害がなんだか分かるかな？

みんな 階段！

根木さん そう、ぼくにとっての障害は階段だね。それじゃあ、みんなでぼくの障害を取り除くのを手伝ってくれる？

みんな OK！みんなでもち上げる！みんなが手伝えば、根木さんも教室に来られるんだね。

根木さん そうだよ！障害をなくしたのは？

みんな ぼくー！わたしー！

根木さん そうだよ。障害はみんなの力でなくすことができるんだ。



しゅざいしやうりよく おおさか ふ まつばら しりつまつばらしやうがっこう
取材協力:大阪府松原市立松原小学校



しやうがい ひと こ そうごうてきかくしやう い
障害のある人たちと子どもたちが、総合的学習「ともに生きる」で、パラリンピック競技のボッチャを楽しむ様子。
しゅざいしやうりよく おおさか ふ まつばら しりつえ が りなみしやうがっこう
取材協力:大阪府松原市立恵我南小学校
ドリーム(当事者の会)

知る

かんが
考える

こう
行動する

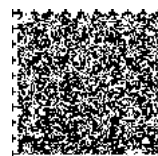
みらい 未来のパラリンピアン

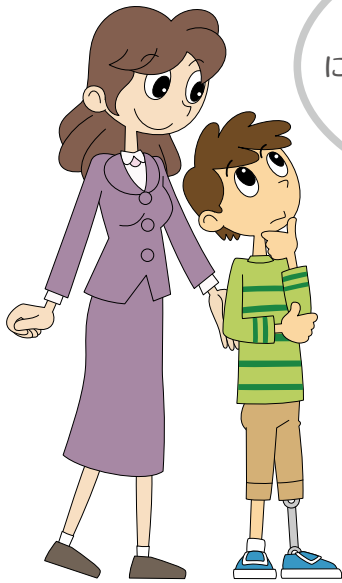
矢田 葉南(やた はなみ)さん

私が、車いすバスケットを始めたのは小学2年生のときで、2人のお姉ちゃんが、バスケットをしているのを見に行ったスポーツセンターで、車いすバスケットを見かけたのがきっかけです。最初はうまくできなかったけど、年上の上手な子に教えてもらいました。いやなことやつらいことがあっても、競技用の車いすで速く動いたり走ったりすると楽しくてすっきりします。スポーツをすることで元気になれます。

根木さんみたいなパラリンピックの選手は、シュートのスピードが速くてきっちり決まって、カッコいいです。私もあんなふうになって、将来はパラリンピックに出たいと思います。

根木さんの車いすバスケット体験会
に参加して、パラリンピックを
目指す気持ちになったそうよ！

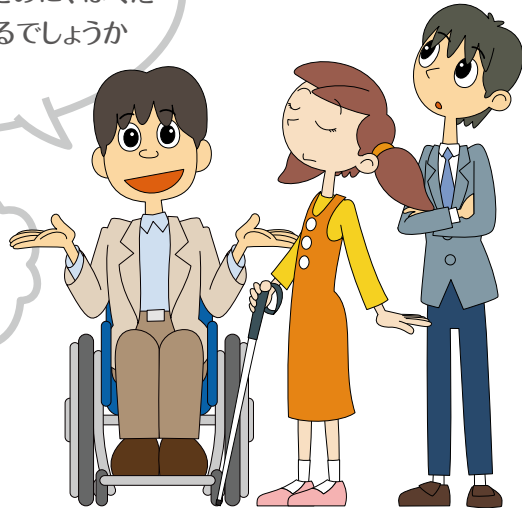




わた した ち の まわ り に は、い ろ
い ろ な 人 が い ま す。すべ て の 人 が 幸 せ
に 暮 ら せ る 社 会 を 実 現 す る た め に、ぼ く ち
ち、わた した ち に 何 が でき る で し ょ う か



み ん な で
は な 話 し 合 っ て
み ま し ょ う。



みんなど話し合ってみよう!

ど ん な 人 で も 得 意 な こ と が あ る ん だ ね。



ジンくんは、授業中にじっと座ってられないことがあります。でも、
絵を描くのがとても得意で、将来は画家になりたいという夢を持っ
ています。あなたならこんなジンくんどうやって友だちになりますか？



ミクちゃんは、運動は得意ではありませんが、歌がとても上手です。
合唱コンクールではソロのパートを担当し、クラスは最優秀賞を受賞する
ことができました。あなたならミクちゃんにどんなふうに声をかけますか？

はな 話 し 合 い の
ヒ ン ト

み ん な の 得 意 な こ と は 何 で す か？ ど ん な 人 に も 得 意 な こ と や 不 得 意 な こ と が あ り、そ
れ ら は 一 人 一 人 違 っ て い ま す。

お 互 い の 違 い を 認 め、理 解 し あ う こ と で、そ れ ぞ れ の 人 の 長 所 が 生 か さ れ、自 信 が つ
き、み ん な が 笑 顔 に な り ま す。あ な た は、友 だ ち の 優 し さ や 応 援 が、が ん ば る 気 持 ち や 勇
気 に 変 わ っ た と 感 じ た こ と は あ り ま せ ん か。

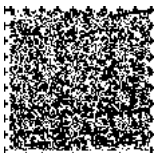
障 害 が あ る こ と や な い こ と、ま た、お 互 い の 違 い を 理 解 し あ い な が ら、み ん な が 楽 し く
幸 せ に 過 ご せ る 学 校 生 活 を 送 る に は ど う し た ら よ い で し ょ う。



し 知 る

か ん が 考 え る

はな 行動 する



いろいろな人と友だちになるには、どうすればいいかな？



① **一人でいる子はいないかな？**
聴覚障害がある子が一人で寂しそうにしているよ。



② **コミュニケーションをとる**
手話を教えてもらってコミュニケーションがとれるようになったね。



③ **障害があってもなくてもみんな同じ。**
クラスみんなが仲良くなれば、新しい発見や幸せな時間が何倍も増えるよね。

話し合いのヒント
障害がある友だちは、話し方や聞き方、遊び方などで、少し周りの人と違う部分があるかもしれませんが、でも、どんな時でも、お互いの個性や違いを認め、コミュニケーションを取ってみると、それまで、気付かなかった部分を発見でき、新しい絆が生まれるかもしれません。

障害のある人もない人も友だちに対し、積極的に、自分なりの方
法で気持ちを伝えてみましょう。コミュニケーションを取って、して
欲しいこと、して欲しくないことがお互いに分かると、気持ちの良
い学生生活を送ることができるでしょう。

知る

考える

道を進めないでいる車いすに乗った人を見かけたらどうする？



① あっ、自転車か歩道をふさいでいる。車いすに乗った人が歩道を通ろうとしているけど、今にも自転車に引っかかりそうだ。



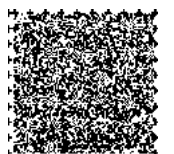
② この子たちは、みんなで自転車をどけているようだね。



③ 車いすに乗った人は喜んでいよ。

話し合いのヒント
自転車や荷物などで道路(歩道)をふさぐと、障害のある人や高齢者にとっては、通行できなくなるばかりか、怪我などの危険が伴います。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の際には、海外から大勢の人が来日します。障害のある人や高齢者、外国人など、さまざまな人の立場を考えて行動するよう心がけましょう。

相手のことを考える行動が互いの人権を尊重することにつながり、本当の「おもてなし」の心につながるのです。



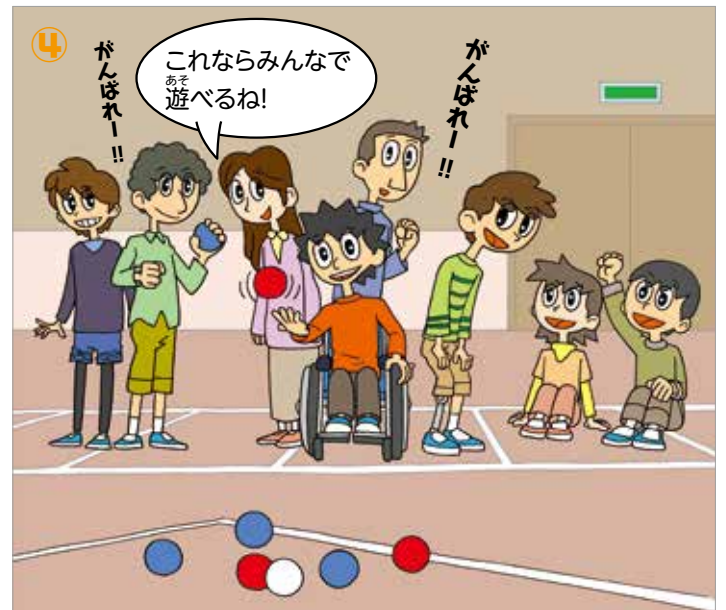
行動する

かんが
考えてみよう!

しょうがい
障害はどこにある?

てんこうせい
転校生が
来るのね!

てんこうせい こ
転校生の子はみんなと
たの ず
楽しく過ごせるかな?



知る

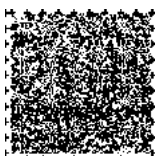
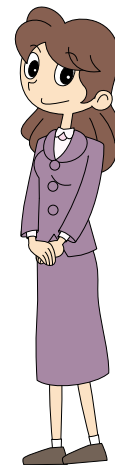
かんが 考える

こう 行動する

はな 話しの
あ ヒント

たが あいて たちば かんが
互いに相手の立場を考えよう。

みなさんは、この様子を見てどう思いますか。転校生の子と休み時間をどのように過ごすか、自分たちだけで決めずに相手の立場を考えて一緒に話し合うことで楽しく過ごせましたね。

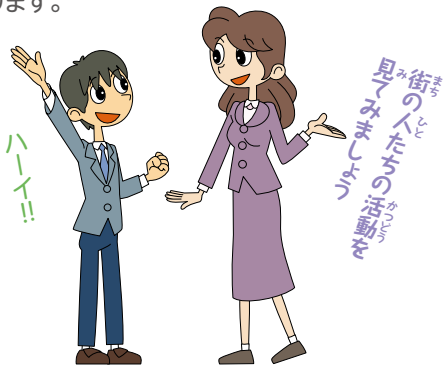


いっ ぽ ひとつ
一歩ふみだして、行動してみよう！

もっと障害について知って、友だちをたくさん作ろう！

が っ 学校だけではなく、住んでいる街の中でも、障害について知ることが出来る機会はたくさんあるよ。もっといろいろな障害について知り、多くの人と話をし、友だちにならなう。

友だちがたくさんできたら、自分の気持ちを多くの人に伝えてみましょう。それが、自分たちの力でより住みやすい社会を作っていく第一歩になります。



① 市役所や区役所、地域センター、図書館などに行ってみる

こうした公共施設でボランティアの募集や交流会が行われていることが多いんだね。



② ボランティア活動をしている人の話を聞いてみる

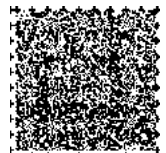
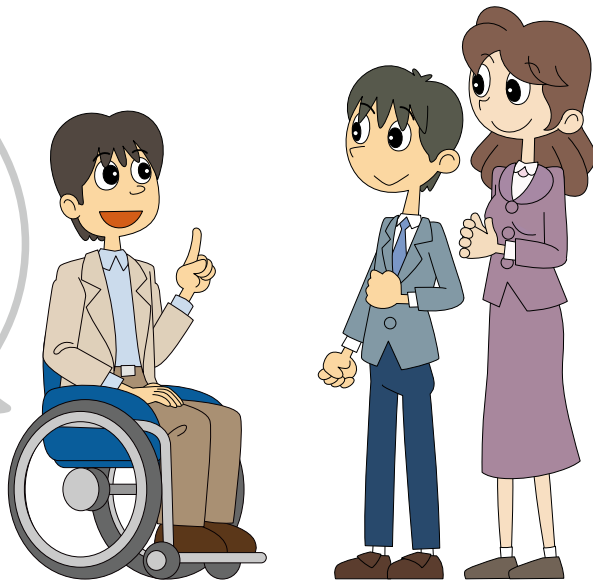
ボランティア活動にはさまざまな人が参加しており、私たちを取りまく社会環境など、これまで分らなかったことが見えてきそう。



③ ボランティア活動に参加する

たくさんの方がボランティアに参加することで、これからわたしたちがどんな社会を作っていきたいのか、分かってくるかもしれないね。

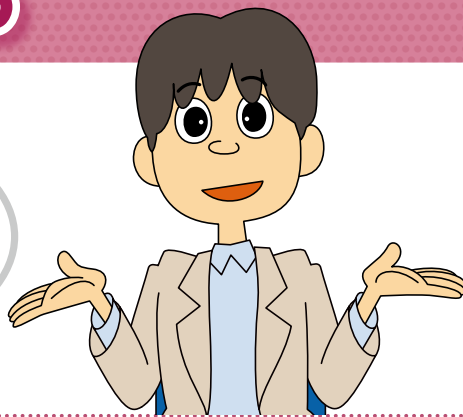
この章でとりあげた例にかぎらず、まずコミュニケーションをとって、相手の求めていることをよく知って、行動することが大切です。一人一人の行動が教室や学校に広がり、やがては社会を少しずつ変えていく力になります。「障害があっても、なくても、すべての人が幸せに暮らせる社会」のために、自分に何ができるのかを考え、勇気を持って行動しましょう。



知る

かん
考える

こ
行動する



こんなとき、どうする？

次の質問には、正解はありません。みんながそれぞれのケースで、自分だったらどうするかを考え、実際に行動するヒントとしていただければと思います。

ケース 1

道の段差を越えられずに困っている車いすに乗った人に出会ったよ。どうしたらいいのかな？

考えるヒント

段差は車いすに乗った人にとって障害になっている。段差をなくしてスロープにすれば、車いすに乗った人にとって、障害はなくなるけれど…。こんなとき、みんなができることって、どんなことだろう。考えてみよう。



知る

考える

行動する

ケース 2

エレベーターに乗ろうとしたら、隣に車いすに乗った人がいた。みんな見て見ぬふりをしてどんどん乗り込んでいるけど、車いすに乗った人が入るスペースがないみたい。

考えるヒント

みんな急いでいるのは分かるけど、見て見ぬふりをするのはよくないよね。たとえば、君から、車いすに乗った人がエレベーターに乗れるよう、スペースを空けてもらえないか、みんなに声をかけるのはどうだろう。車いすでなければ、エスカレーターや階段でも行けるわけだから、先に譲ってあげたらどんな気持ちかな。

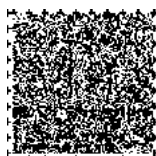


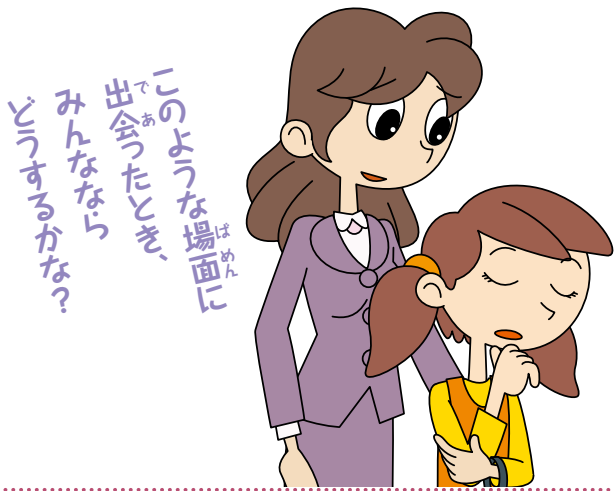
ケース 3

混雑している電車で車いすに乗った人がいた。なぜドア付近の真ん中にいるのかな？

考えるヒント

車いすに乗った人が電車の奥にいたら、混んできた場合、すぐに降りられないよね。だから、車いすに乗った人の多くは、ドア付近にいてすぐに降りられるようにしているかもしれないね。電車や公共の場所で、相手の立場を考え、お互いが気持ちよく利用するためには、どんなことに注意するべきかな。考えてみよう。





このような場面に
出会ったとき、
みんななら
どうするか？

私だったらどうしよう？

みんな
分かる？

みんな
で考えよう！



ケース
4

視覚障害の人用の誘導ブロック上に
荷物を運ぶ台車が止めてあった。
そこに置いて大丈夫なのかな？

考える
ヒント

近くで荷物の荷降ろしがあるのかな。でも、その荷物は誘導ブ
ロックをさえぎっているから、視覚障害の人がその道を歩くことが
できなくなってしまうよ。その荷物は、視覚障害の人にとっての障
害になっているね。みんなが社会のルールやモラルを守って行動す
れば、社会の障害はなくなるんだ。

知る

考える

行動する

ケース
5
道で白杖を手にした視覚障害の人が、
白杖をまっすぐにかけているよ。
どうしたらいいかな。

考える
ヒント

白杖をかかげるポーズは「白杖SOSシグナル」といって、近くにいる
人に助けを求めているんだよ。「白杖SOSシグナル」のポーズをしてい
る人を見かけたら、「どうされましたか」などと声をかけてみよう。困
っていることが分かったら、どうしたらいいかは自分だけで判断せず、視
覚障害の人にどんなお手伝いができるか聞いて、自分だけでは十分に
お手伝いできないときは、近くにいる大人に相談しよう。

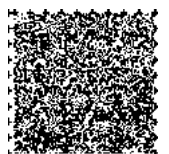


ケース
6

混雑している道で白杖を持った
視覚障害の人が歩いていた。
なぜ視覚障害の人のまわりは人がすくないのかな？

考える
ヒント

白杖を持った視覚障害の人は、白杖で路面の変化を探りながら
歩いているんだ。だから、まわりの人は、白杖の妨げをしないように
距離をとっているみたいだ。他にも同じような
経験はあったかな。思い出してみよう。



- ・外務省「障害者権利条約」パンフレット
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html
- ・公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
http://www.joc.or.jp/
- ・IOCオリンピック憲章(和訳文:JOC HP)
http://www.joc.or.jp/olympism/charter/
- ・日本パラリンピック委員会(JPC)
http://www.jsad.or.jp/paralympic/jpc/

- ・日本財団パラリンピックサポートセンター
- ・一般社団法人日本パラバレーボール協会
- ・特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会
- ・一般社団法人日本ボッチャ協会
- ・松原市
- ・松原市教育委員会
- ・社会福祉法人松原市社会福祉協議会 (五十音順)



いっしょに学ぼう! 障害のある人の人権 ～パラリンピックへ向けて～

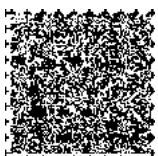
2016(平成28)年3月発行
2019(令和元)年7月改訂

企画: 法務省人権擁護局 ホームページ <http://www.moj.go.jp/JINKEN/>

監修: 根木 慎志 一般社団法人日本パラリンピアンズ協会副会長、
シドニーパラリンピック男子車椅子バスケットボール日本代表キャプテン

制作: 公益財団法人人権教育啓発推進センター
〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目10番12号 KDX芝大門ビル4階
電話 03-5777-1802(代表) ホームページ <http://www.jinken.or.jp>

複製・内容などに関しては、(公財)人権教育啓発推進センターにお問い合わせ下さい。



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。